リウマチ・膠原病内科

部長　公文　義雄

はじめに

日々の診療データの一部をご紹介させて頂き当科の今年一年のサマリーとさせて頂きます。

当科はリウマチ難病を対象に診療させて頂いており、多忙の中にも充実した一年であった。脳神経内科を併任しておられる吉田剛先生と私で主に担当し、総合内科の中山修一先生と非常勤の近澤宏明先生の専門医 4 人が診療に参加した。また、聖路加国際病院から斉藤優奈先生が、高知大学から、岸本浩一郎先生、澤村大造先生が研修に参加して頂き、当院の若い初期研修の先生方も勉強して下さり、楽しくもあり嬉しい一年であった。ER からの搬入以外に、県内外を含め遠路からも一日平均 5 人の患者さんを当科にご紹介頂き有難うございました。内科医、整形外科医を含め医療連携施設の多科にわたる多くの先生からご紹介頂いたことにまずこの場を借りて御礼申し上げます。

診療の実際

リウマチ・膠原病の患者さんの病態は個々異なっており、また、希少な病態の合併もあるため十分な準備も必要であり我々には日々の研鑽が要求される。

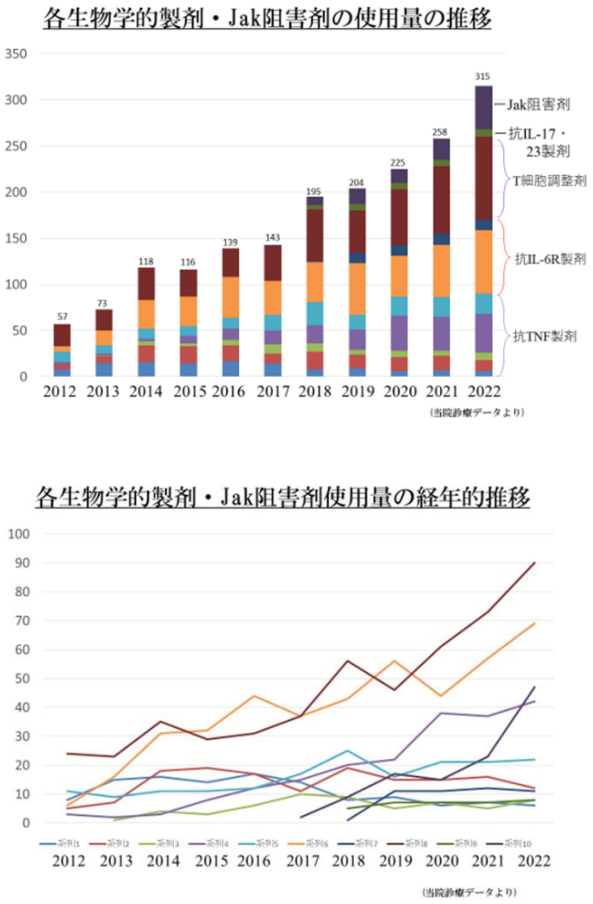

図 1.2. 生物学的製剤・Jak 阻害剤の使用量の推移

毎年お示しているが、リウマチ診療に必要な生物学的製剤や Jak 阻害剤の使用量の推移で当

科の仕事量をご理解頂きたい。これらの治療適応の患者さんはまだ増えており、寛解で中止して頂く患者さんも結構増えているが未だに右肩上がりである。当該科の診療は症例も多岐に渡り、アンメットニーズは決して減らず、現実的に現在もなお当科は発展途上である。関節リウマチでも治療薬が新たに登場し、効率の良い診療が可能となり、患者さんの予後も間違いなく改善はされている。しかし、一方では ADL を損なう程の痛みが症状として残り、治療抵抗性関節リウマチ(difficult to treat RA, D2TRA)とされている病態がある。線維筋痛症の合併も含めて、病態の診断や治療法など、まだ難しい問題が周辺には他にもある。また、当院でも吉田先生を中心に取り組んでいる当院脳神経内科と膠原病の学際的領域の痛み、痺れや難病の診療も需要の上から見ても極めて重要であると考えられる。リウマチ膠原病の代表である SLE や炎症性筋疾患、血管炎症候群など臨床病型により治療法は異なり、リウマチや難病疾患の治療は内科医なら誰でもできる簡便な治療になるにはまだまだ程遠い。何れにしても当科でも研修して頂いた先生方が育って活躍してくれるのを待ちたい次第である。

皆さん方ご存じのことと思うが、COVID-19 診療で肺炎などの重症化予防にリウマチの治療薬が役立ったり、COVID-19 に感染或いは予防接種後にリウマチ・膠原病が誘発されたりと、我々も感染と膠原病との関連性を多く実感させられた時期でもあった。過剰な免疫反応を抑える際に用いることができる当科の治療法は、今の with corona の時代にはコロナ感染症のパンデミック前とは少し使い方も変わってきている。

最後に

当院の地域医療支援病院という診療上の立ち位置より、概ね落ち着いた患者さんや遠方から通院されておられる患者さんは患者さんの同意を得て積極的にお返しするようにしている。とはいえ治療の厄介なリウマチ膠原病患者さんは別として、患者さんの当院へ通院のインターバルを開けて定期的に通院して頂くことも考慮している。何れにしても高知県の医療事情は厳しく、喫緊の課題として地域の先生方と一緒に患者様を支えていく体制を構築しておく必要があると考えている。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
健常者における筋エコー輝度の推定値の算出	吉田 剛	第 41 回 日本脳神経超音波学会総会/第 25 回 日本栓子検出と治療学会	6 月 3 日～4 日 東京(ハイブリッド開催)
SpA 様関節症状を機に診断できた家族性地中海熱非典型方例と考えられる 3 症例	公文 義雄 古賀 智裕、來留島 章太、吉田 剛、中山 修一、川上 純、近澤 宏明	日本脊椎関節炎学会 第 32 回学術集会	9 月 10 日～11 日 鹿児島(ハイブリッド開催)
RA に合併した家族性地中海熱非典型例と考えられる 1 症例	公文 義雄 斉藤 優奈、澤村 大造、吉田 剛、中山 修一、近澤 宏明	第 33 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	12 月 2 日～3 日 山口
SLE との鑑別に難渋した播種性帯状疱疹に伴うウイルス性肺炎の一例	山内 涼平 斉藤 優奈、吉田 剛、公文 義雄、高田 智也、中嶋 絢子	第 33 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	12 月 2 日～3 日 山口
炎症性筋疾患における骨格筋超音波と臨床・筋病理所見の相関についての検討	吉田 剛 山崎 博輝、西森 裕佳子、高松 直子、谷口 義典、野崎 太希、公文 義雄、和泉 唯信	第 33 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	12 月 2 日～3 日 山口

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
病巣感染と関節疾患	公文 義雄	炎症と免疫 先端医学社	2022年9月号 Vol.30 No.5 430-433
分類不能脊椎関節炎症例に対する扁桃摘出術の有効性	公文 義雄、土井 彰、近澤 宏明、吉田 剛、中山 修一、小林 茂人	日本脊椎関節炎学会誌［第2期］	Vol Ⅸ,No.1,11-17,2022
Influence of concomitant methotrexate use on the clinical effectiveness, retention, and safety of abatacept in biologic-naïve patients with rheumatoid arthritis: *Post-hoc* subgroup analysis of the ORIGAMI study	Takanori Azuma, Kenta Misaki, Makio Kusaoi, Yoko Suzuki, Shinji Higa, Yoshitaka Kumon, Tamami Yoshitama, Taio Naniwa, Shinsuke Yamada, Tadashi Okano, Kimihiko Takeuchi, Kei Ikeda, Kenshi Higami, Masayuki Inoo, Tetsuji Sawada, Chonte Kang, Masatoshi Hayashi, Yuko Nagaya, Takafumi Hagiwara, Eisuke Shono, Shinkichi Himeno, Eiichi Tanaka, Eisuke Inoue, Yuri Yoshizawa, Michiaki Kadode, Hisashi Yamanaka, Masayoshi Harigai	Mod Rheumatol	
Application of z-score-based quantification of muscle echogenicity for the diagnosis of sarcopenia in patients with rheumatoid arthritis	Takeshi Yoshida, Yoshitaka Kumon, Naoko Takamatsu, Taiki Nozaki, Masataka Inoue, Jemima Albayda, Yuishin Izumi	geriatrics & gerontology international	DOI:10.1111/ggi.14507
総合診療で診逃さない！むくみの原因とピットフォール	板金 正記、一來 征仁、伊藤加菜絵、大塚 暢、金城 紀与史、須藤 航、畠中 成己、原瀬 翔平、矢野 裕之、吉田 剛、吉年 俊文	診断と治療社	P29-37、128-132、136-139、168-179